

# 60才からの食事付マンション ローズガーデン倉敷ニュース

## 20年を迎えます

理事長 高尾 聡一郎

ローズガーデン倉敷は平成16年9月に、病院開設者であり私の父である高尾武男により開設されました。当時父は59歳。自身が60歳以降を過ごすならば…。その理想をこの、「ローズガーデン倉敷」に重ねたそうです。「人生の後半戦はもっと自由に、もっと心豊かであるべきだ。文化と歴史薫る倉敷の真ん中で、安心と心地よさに包まれながらお過ごしいただきたい」そんな思いが込められた施設です。今年9月で20年目を迎えます。

私はというと、その頃脳外科医として岡山大学病院に勤務しており、急性期の治療に没頭していました。倉敷平成病院に着任したのは平成19年です。平成25年に理事長職に就きましたが、介護・福祉部門の運営は専ら、前理事長と副理事長とが担当しておりましたので、なかなかローズガーデン倉敷にご入居の皆様との交流が持てておりませんでした。現在はCOVID-19感染対策のため、行事開催を控えざるを得ない状況です。今後、ご入居の皆様と触れ合う機会を持てたらと考えています。

私の座右の銘は「共に生きる」です。患者さんと共に、家族と共に、職員と共に、ご利用の方々と共に等、その意味は年を重ねるにつれ広がり、深まります。

開設当初の思いを承継し、ここに住まわれる方々が健やかで安心な日々を送れるよう運営してまいり所存です。



倉敷平成病院応接室には、書家 金澤翔子氏による書「共に生きる」が掲げられている



社会医療法人全仁会 理事長  
高尾 聡一郎



## ご入居の皆様より

### 倉敷

ローズガーデン倉敷に入居して丸8年。  
生まれも育ちも倉敷。美観地区の中の産婆  
さんに取り上げてもらい育った家はもちろ  
ん、人生の大半は、ローズガーデン倉敷の近くで過ごしました。

ローズガーデン倉敷の建設中には、何度も前を通り、気になっていました。

そして、いざ見学へ！見学に来たその日に気に入り、契約。

入居を決めたのは、「生まれ育った倉敷がいい!!」と思ったから…。

夫の一周忌を済ませた時点で、今後は皆に迷惑をかけないようにしようと考えまし  
た。家族には相談せず、自分の意志で入居の契約をしたので、びっくりしてしま  
したが、大賛成してくれました。

ローズガーデン倉敷での生活は、毎日充実しています。お天気がいい日には周囲を  
散歩したり、買物に出かけたり…。ローズガーデン倉敷の近くには、スーパーや薬局、  
コンビニも近いので、とても助かっています。近くを散歩していると、昔の同級生に  
声をかけられたり、懐かしい昔の記憶をたくさん思い出します。

倉敷の街並みは昔とは随分、変わってしまいましたね。

平成12年から、頭の体操として始めたパソコンで、毎日、日記を書いたり、家計  
簿をつけたりするのが日課です。特に、パソコンを使った脳トレは、とっても楽しく  
てお勧めです！

私の趣味は、洋裁や編み物で、子供の時から今までにたくさんの物を作り、自分で  
作った物で、おしゃれをしてきました。恥ずかしながら、写真も私の作品です。これ  
からも、まだまだ作り続けようと思っています!!

H. H



倉敷駅前（南口） 昭和38年11月



倉敷美観地区（現：倉敷館、倉敷民芸館前）を走るボンネットバス  
昭和29年1月

出典：倉敷市歴史資料整備室所蔵  
安藤弘志氏撮影写真



## スマホ

私がこちらにお世話になろうとした一番のきっかけは、その前年にひどい五十肩に見舞われ、それまで独居生活で自炊をしていたのにそれが難儀になって、特に夕飯の後片付けがいやになって。こちらに入居後は、その一番いやな仕事がなくなってまことに悠々と快適な生活になりました。が、その代わり夜が長くなりまして。

最近のTVは、若者向けの番組というのか、若い人が若者言葉や流行語を早口で喋っている番組も多く、見づらいことも多いですね。

そこで今どきのスマホにしようと思いましたが、このスマホが年寄りには誠に使いにくい。まず、使い方が複雑で、何度聞いてもすぐに忘れてしまい、また、ちょっと間違っ

て押したり、指が触れたりすると、全くいうことを聞かなくなり、お手上げになってしま

う。こんな簡単なこともできないのに、いざ使ってみると便利なもの。

一番は、インスタグラムですね。写真を投稿するアプリですが、毎朝孫の写真や動画がアップされているので、遠くに住んでいる家族も隣に住んでいるかのように感じ

ます。次に、ユーチューブを見ますが、テレビと違って、ニュースでもなんでも、自分の

見たい番組が、いつでも見られる。私が一番ハマって見ているのは、将棋の藤井聡太のタイトルマッチですね。にわかファンなのですが、他に「インターネット」で見ると、昭和歌謡曲とか70年代フォークソングなどの歌や、綾小路きみまろの漫談、ナイツの漫才、その他では、サッカー、相撲などのスポーツ実況などなどです。最近ではスマホが手放せなくなって、スマホ依存症ではないかと自分でも思いますが、スマホ認知症になったという話はまだ聞いていないので、私はスマホと共に長い夜を過ごしたいと思っています。

山野 高廣



倉敷平成病院のInstagramを表示したスマホ



大山名人記念館  
撮影：山野 高廣

平成28年10月に、史上最年少のプロ棋士となった藤井聡太五冠（令和5年3月7日現在）は、大山名人記念館で行われた「第10回大山名人杯争奪全国小学生倉敷王将戦 低学年の部」（平成23年）の優勝者です。大山名人記念館は倉敷市芸文館に隣接。ローズガーデン倉敷から徒歩9分です。

## 思い出の1ページ

思いがけない写真が出てきました。10年前、ローズの入居者 M 夫人を関西の施設へ送った時のものです。昭和1ケタ生れの M ご夫妻は開設間もないローズガーデンに入居されました。数年後、ご主人は亡くなられ、1人残った奥様はペット棟に転居し、家に残し親族にゆだねた愛犬を引き取り、看送られました。



その後、80歳を前にご自身の大病が続いたのですが、「主人を送り、子供同然の犬も看送り、私は大満足です」の心境でした。彼女の最後の病気は、胸部大動脈瘤と腹部大動脈瘤。最初に受けた胸部大動脈瘤の手術は、全身麻酔下の大手術で、術後は寝たきりに。翌年見つかった腹部大動脈瘤に対して「私は手術をしません！」と意思表示されました。大動脈瘤の破裂は死を意味するので、手術拒否時点で入院病院の外科からは水島の分院への転院を勧められました。その時ローズのスタッフから、ローズで看ましようとの意見が出、私は驚くと同時に内心喜びました。当時はまだグランドガーデンはなく、「救急から在宅まで…」の全仁会の理念を実行すべく、ローズ館内に「さくら苑」という介護棟を造り、夜間も専任の介護者が担当できる体制にしていました。



月に1度は関西から妹さんが来られ、妹さんも高齢且つ家では要介護者を看ながらの生活で、倉敷への面会は端目にも負担な様子でした。瘤の破裂もなく3年が経ち、妹さん宅の近くに新しく施設が出来たとのことで、そちらへ移る手筈を整えました。私は倉敷平成病院で訪問診療医として仕事をしていたが、県をまたいで移動中の救急車内での看取りは経験がなく課題ではありました。関係者とミーティングを重ね、白紙の死亡診断書を携帯して同乗しました。結果的にはトラブルなく目的施設に到着。

写真は、移送を無事終えた安堵の中、内心では最後の別れになるであろうと思いつつ、道中の慰労を伝えているショットです。約1年後、永眠されました。写真当時、私自身が病気でサングラス必須なのと、免疫弱者の為美容院へ行けず髪を後ろで束ねた姿で、別人の様ですがまぎれもなく私です！懐しい、ローズガーデンの歴史と私との1コマです。

顧問 高尾 公子（前施設長）

### 《入居者受付中》

入居者募集を行っています。お知り合いの方のご紹介をぜひ宜しくお願いいたします。



社会医療法人 全仁会

住宅型有料老人ホーム



ローズガーデン倉敷

〒710-0823

岡山県倉敷市南町 4-38

TEL:0120-628-114

FAX:086-435-2118

<http://www.rosegarden-kurashiki.jp>